



台湾総督府で蔡総統(写真中央)と面会した足立議員(左から4人目)ら

インフラ投資向上を

同期当選者と台湾視察

足立議員

足立敏之参院議員は、8月の台湾訪問で視察した台北市内の都市開発や、土砂災害の被災地の状況を踏まえ、国土強靱化や国際競争力強化の観点からも「インフラ整備の投資レベルを高める必要がある」と強調した。「海外に行くたびに日本のインフラレベルが後れを取っていると感じる。投資レベルを高めないと

二流、三流の国になってしまう」と危機感を示すとともに、頻発化、激甚化する自然災害に対応するための公共事業予算確保を訴えた。台湾訪問は8月26―28日に参議院同期当選の7人と台湾経済界との交流を目的に実施。28日には台湾総督府で蔡英文総統と面会し、大規模災害時の協力や支援、外交問題

などについて意見交換した。台北市内では台北101や、熊谷組の現地法人である華熊營造が施工している高級マンション「陶朱隱園(タオヂュインユエン)」などの都市開発の状況を視察。台南市にある烏山頭ダムのほか、2009年の豪雨に伴う土砂災害で大きな被害を受けた高雄市少林村(現少林里)も訪れた。被災地の視察では、「激甚化する水害、土砂災害に備えることの重要性を改めて認識した」と振り返った。移動には新幹線や高速道路

も使った。高速道路は暫定2車線区間もなく、「日本もアジアでの地位を保持するためにもインフラ整備にしっかりと取り組んでいなければならぬ」と痛感したという。活発な都市開発や自然災害による爪痕を目の当たりにした視察を踏まえ、「日本のインフラ整備への投資を海外並みか、それ以上にしていかなければならない」と力を込めた。